

グローバル・ロボティクス株式ファンド

(1年決算型) / (年2回決算型)
(為替ヘッジあり・1年決算型) / (為替ヘッジあり・年2回決算型)
追加型投信 / 内外 / 株式



Global Robotics Equity Fund

モーニングスター・アワード“Fund of the Year 2019”国際株式型(グローバル)部門
優秀ファンド賞 受賞 グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

設定・運用は

 **東洋証券**

東洋証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会



ファンドの特色



1

世界各国の株式の中から主にロボティクス関連企業の株式に投資を行ないます。

- 今後の成長が期待されるロボティクス関連企業の株式を中心に投資を行なうことにより、中長期的な信託財産の成長をめざします。
- 産業用やサービス用などのロボットを製作する企業のみならず、ロボット関連技術であるAI(人工知能)やセンサーなどの開発に携わる企業も投資対象とします。

2

銘柄選定は、株式のアクティブ運用に注力するラザード社が、徹底した調査に基づき行ないます。

- 株式運用に強みを持つ米国の資産運用会社、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー(ラザード社)が「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の運用を行ないます。

3

お客様の運用ニーズに応じて、決算頻度や為替ヘッジの有無が異なる4ファンドからお選びいただけます。

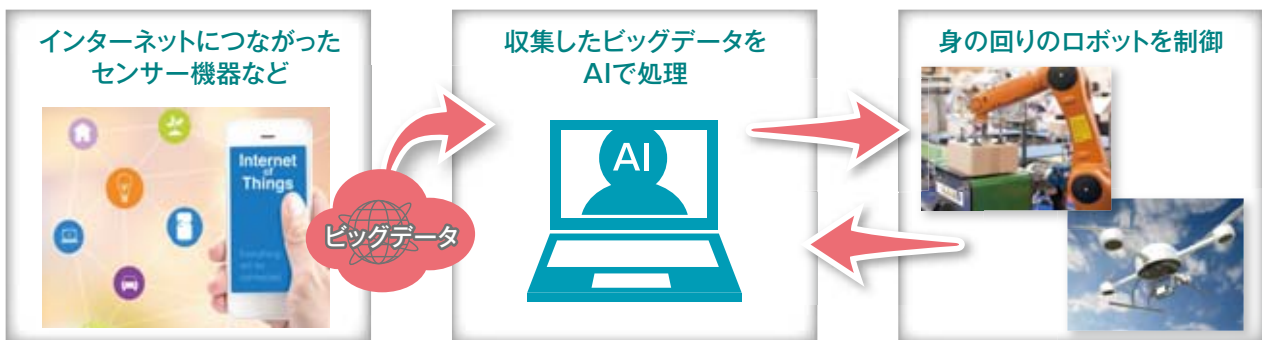
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行なわない「1年決算型」、「年2回決算型」と、原則として為替ヘッジを行なう「為替ヘッジあり・1年決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」があります。
※ 為替ヘッジによって為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なう際、対象通貨の短期金利より円の短期金利が低い場合には、為替ヘッジコストがかかります。
- 「1年決算型」、「為替ヘッジあり・1年決算型」は、毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
- 「年2回決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」は、毎年1月20日、7月20日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。
- ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

ロボットを製作する企業のみならず、ロボティクス関連企業に投資

現在のロボットは、インターネットなどにつながったセンサーなどから収集したビッグデータを、AI(人工知能)で処理して動くことが珍しくなくなっています。当ファンドでは、こうした一連の技術を含めたロボティクス関連事業を行なう企業に投資します。

ロボティクス関連事業

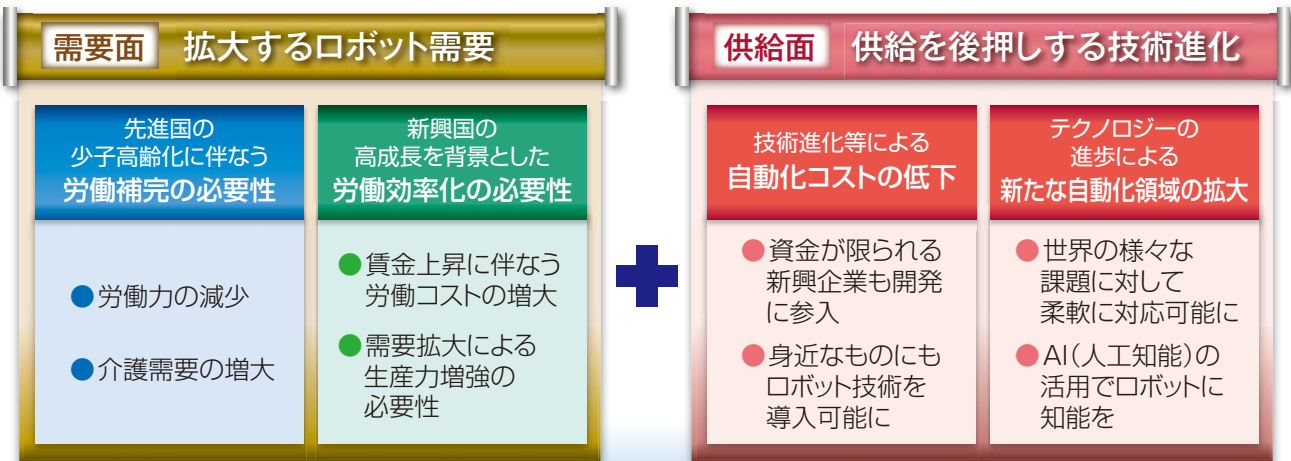


※上記はイメージ図です。

なぜ、ロボティクス関連業界は加速度的な成長が期待されているのですか？

労働力の減少や賃金の上昇を背景としたロボット需要の拡大に加え、自動化コストの低下やテクノロジーの進歩によって、ロボットの供給力も飛躍的に向上しているからです。

■ 足元では、大手IT企業によるロボティクス関連企業のM&Aが相次ぎ、業界への人材・資金の流入が加速しているなど、ロボティクス関連業界への注目は日増しに高まっています。



力強い成長が期待されるロボティクス関連企業

※上記はイメージ図です。

技術進歩によって様々な課題に対するロボットの対応力が増したことから、私たちの生活の様々な場面で新しい生活が実現されていくとみられます。

ロボットの活用で実現される新しい生活



FA(工場自動化)



研究開発の自動化



運転の自動化



インフラ点検の自動化



エンタランスの自動化



手術用ロボット

※上記は例であり、写真および図はイメージです。また、関連企業の当ファンドへの組入れを約束するものではありません。



いま、ロボティクス関連業界ではどのようなことが起きているのですか？



IoT(モノのインターネット)とAI(人工知能)の進歩により、ロボットがさらに活用されるための土台が整いつつあります。

IoTとAIはロボットとの関係性も深く、技術力の進歩、部品の低価格化に加えて、ロボットが更に活用されるための土台が整いつつあります。

社会構造の変化に繋がるIoTとAI

IoT あらゆるモノをインターネットに接続

パソコンやサーバー、プリンタ等のIT関連機器に接続されていたインターネットをそれ以外の様々な“モノ”に接続する技術のこと。

“モノ”をインターネットにつなぐことにより、以下が実現されます。

離れたモノの状態を知る

離れたモノを操作する



照度



音



温度



ロボット



工場



物流

など

ロボットにIoTを適用することで、ロボットの状況等を適宜把握して操作することが可能に

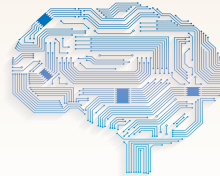
※上記はイメージ図です。

AI 人間と同じように学び、考える

人間の脳が行なっている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステムのこと。

人工知能50年来の革命“ディープラーニング”

ディープラーニングとはAIの手法の一種で、人間の頭脳を構成する無数の神経細胞のメカニズムを模倣したニューラルネットワークを何層も重ねたものです。同手法によりAIの性能は急速に進化しています。



AIの主な機能

- ✓ 論理的な推論を行なう
- ✓ 経験から学習する
- ✓ ビッグデータの解析

など

ロボットの頭脳となるAIの進化を受けて更に広がるロボットの可能性

製造業ではロボットやIoT、AIといった最新の技術を駆使して、全ての工程を人の手を介さずに自動化する「第4次産業革命」が進行しています。

第4次産業革命では、AIが工場内のロボットなどに対して最適な指示を出していき、工場全体の生産効率を高めるとされています。さらに工場同士をネットワークでつなげ、製品の設計から部品の調達、流通までのすべてをAIが管理することで、生産コストを大幅に削減することができると期待されています。

産業革命の変遷



※上記はイメージ図です。

今後のロボティクス関連業界の成長見通しは どうなっているのですか？

各国政府もロボットの可能性に着目しており、ロボットを活用して国際競争力を高めるべく種々の政策を打ち出しています。

■日本では、2018年6月の「未来投資戦略2018」で、あらゆる産業や社会生活に第4次産業革命のイノベーションを取り入れることで、様々な社会課題を解決する「Society(ソサエティ)5.0」などをメインテーマに掲げています。また、2020年には成長戦略実行計画において、DX(デジタルトランスフォーメーション)をはじめとしたデジタル市場への対応強化策を打ち出しています。

各国のロボット関連政策

| 米国 | ドイツ | 中国 | 日本 |
|---|---|--|---|
| ロボットを用いた製造業の再興 主なロボット関連政策 国家ロボットイニシアティブ <ul style="list-style-type: none"> ●人間の能力の増強を目的として、人間とともに働くロボットの開発に力を入れる。 ●2020年のロードマップでは、従来の産業用ロボットに加え、人と協働するサービスロボット市場の急拡大が見込まれる。 | 主要工業国としての更なる発展 主なロボット関連政策 Industry 4.0 <ul style="list-style-type: none"> ●世界に先駆け、製造業のサービス化・高付加価値化をめざし、工場間の水平統合の推進・標準化などをめざす。 ●「ハイテク戦略2025」では、人工知能などの技術開発に注力。 | 世界のロボット技術リーダーをめざす 主なロボット関連政策 「第14次五カ年計画」ロボット産業発展計画 <ul style="list-style-type: none"> ●世界のロボット技術のリーダーとして、自国内で部品製造から利用までを完結させることを目指す。 ●「ロボット+」では、2025年までに製造業のロボット密度を2020年の倍に向上させることを打ち出す。 | 種々の構造的な問題をロボットで解決 主なロボット関連政策 ロボットによる社会変革推進計画 <ul style="list-style-type: none"> ●様々な課題に対応できるシステムインテグレータ(メガインテグレータ)を育成し、ロボットの社会実装を更に推進。産学が連携し、人材育成やロボット技術の更なる高度化を目指す。 |

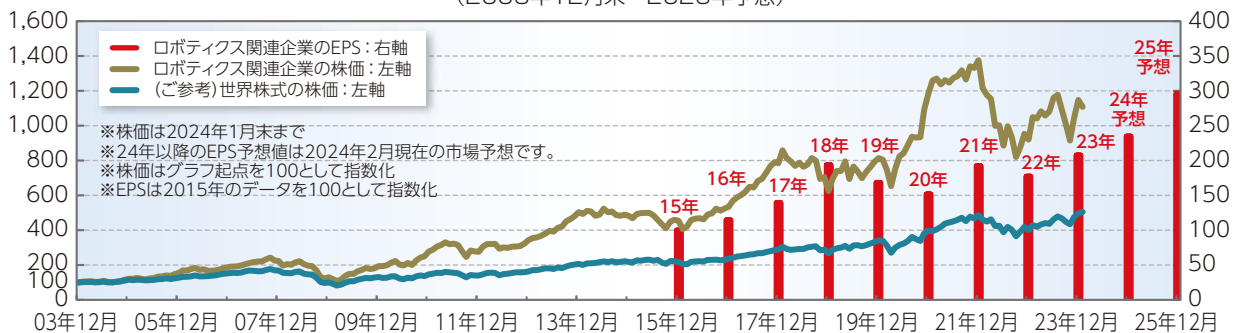
※各政策は資料作成時点のものであり、予告なしに変更される可能性があります。(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

ロボティクス関連企業の業績見通しは良好で、
株価パフォーマンスは中長期的に堅調に推移すると期待されます。

■ロボティクス関連企業の株価パフォーマンスは、活躍の場の拡大や、各国の政策的な後押しなどを背景に、世界株式を上回って推移して来ました。今後についても、ロボティクス関連企業の業績見通しは良好であり、株価パフォーマンスは中長期的に堅調に推移すると期待されます。

ロボティクス関連企業の業績見通しは良好で、中長期的に堅調な株価パフォーマンスを期待

【ロボティクス関連企業の株価(配当込み、米ドルベース)とEPS(1株あたり利益、米ドルベース)の推移】
(2003年12月末～2025年予想)



ロボティクス関連企業:ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数、世界株式:MSCI World指数(配当込み、米ドルベース)
 ※ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数は、ROBO Global社が開発した、世界のロボティクス関連事業を行なう企業の株式で構成された指数です。

※ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数を円換算したものは、「1年決算型」、「年2回決算型」の参考指数です。

※上記は当ファンドのパフォーマンスを示すものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

ロボティクス関連企業の株価は、世界株式全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

※上記グラフデータは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。



為替ヘッジについて

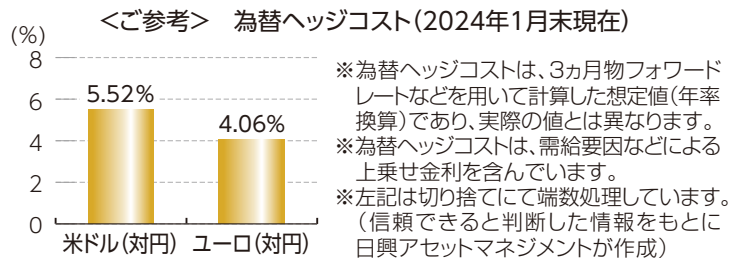
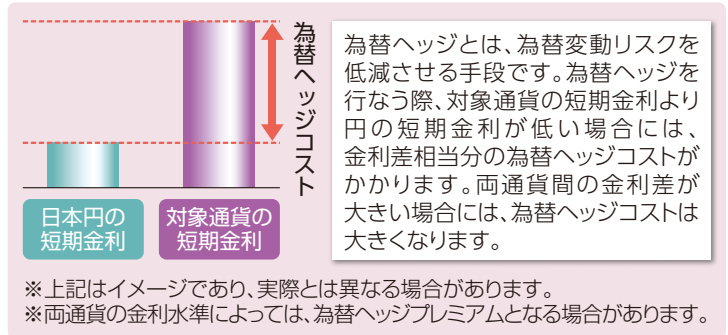


「為替ヘッジあり・1年決算型」と「為替ヘッジあり・年2回決算型」は、
為替ヘッジを行なうことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

■「1年決算型」、「年2回決算型」の2ファンドは、為替ヘッジを行なわないため、円高時は為替差損が生じますが、円安時には為替差益の獲得が期待できます。一方、「為替ヘッジあり・1年決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」の2ファンドは、為替ヘッジを行なうことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

| | 「1年決算型」 「年2回決算型」 | 「為替ヘッジあり・1年決算型」 「為替ヘッジあり・年2回決算型」 |
|--------------|---------------------|-------------------------------------|
| メリット | ✓円安時には為替差益が期待される。 | ✓円高時に為替差損の低減を図れる*。 |
| デメリット | ✓円高時には為替差損を被る。 | ✓為替ヘッジコストがかかる。 ✓円安時に為替差益を得られない。 |

*必ずしも為替変動リスクが完全に排除されるとは限りません。



為替ヘッジ後の株価パフォーマンスについても、ロボティクス関連業界への成長期待などを背景に、中長期的に堅調な推移を続けてきました。

為替ヘッジ後の株価パフォーマンス

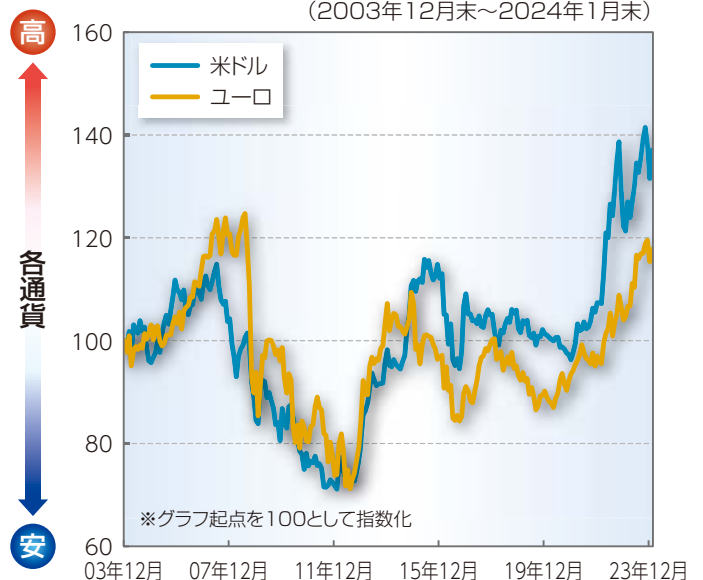
米ドルとユーロの推移(対円)

【ロボティクス関連企業の株価(配当込み、円ヘッジベース)の推移】
(2003年12月末～2024年1月末)



ロボティクス関連企業:ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数(配当込み、円ヘッジベース)
 ※ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数は、ROBO Global社が開発した、世界のロボティクス関連事業を行なう企業の株式で構成された指数です。
 ※上記指数は「為替ヘッジあり・1年決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」の参考指数です。
 ※上記は当ファンドのパフォーマンスを示すものではありません。
 (信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

(2003年12月末～2024年1月末)



※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ラザード社のご紹介と運用プロセス

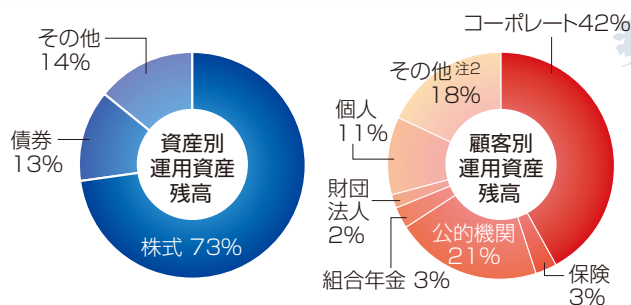
ラザード社のご紹介

LAZARD
ASSET MANAGEMENT

- ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー（ラザード社）は、米国・ニューヨークを拠点とする資産運用会社です。170年超の歴史を持つ投資銀行であるラザード・フレール・アンド・カンパニー・エルエルシーの資産運用部門として1970年に設立されました。
- 株式運用の中でもアクティブ運用に注力しており、機関投資家や公的年金などを主な顧客として、資産運用業務を行なっています。

■ ラザード社の概要 ■ (2023年6月末現在)

株式運用に注力



<運用資産残高^{注1}> 2,033億米ドル(約29.4兆円)

注1:運用資産残高は、投資一任契約を含むラザード・グループの運用委託資産合計です。

注2:その他には、ミューチュアル・ファンド等の顧客を含みます。

※上記数値は四捨五入しておりますので、合計が100%とならない場合があります。

運用資産残高には、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー（ニューヨーク）およびその子会社の運用資産が含まれますが、Lazard Frères Gestion/Parisや、ラザード・リミテッドのその他の運用事業の資産は含まれていません。

換算為替レートは1米ドル=144.53円(2023年6月末現在)。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

世界17カ国を拠点に、充実した調査・運用体制

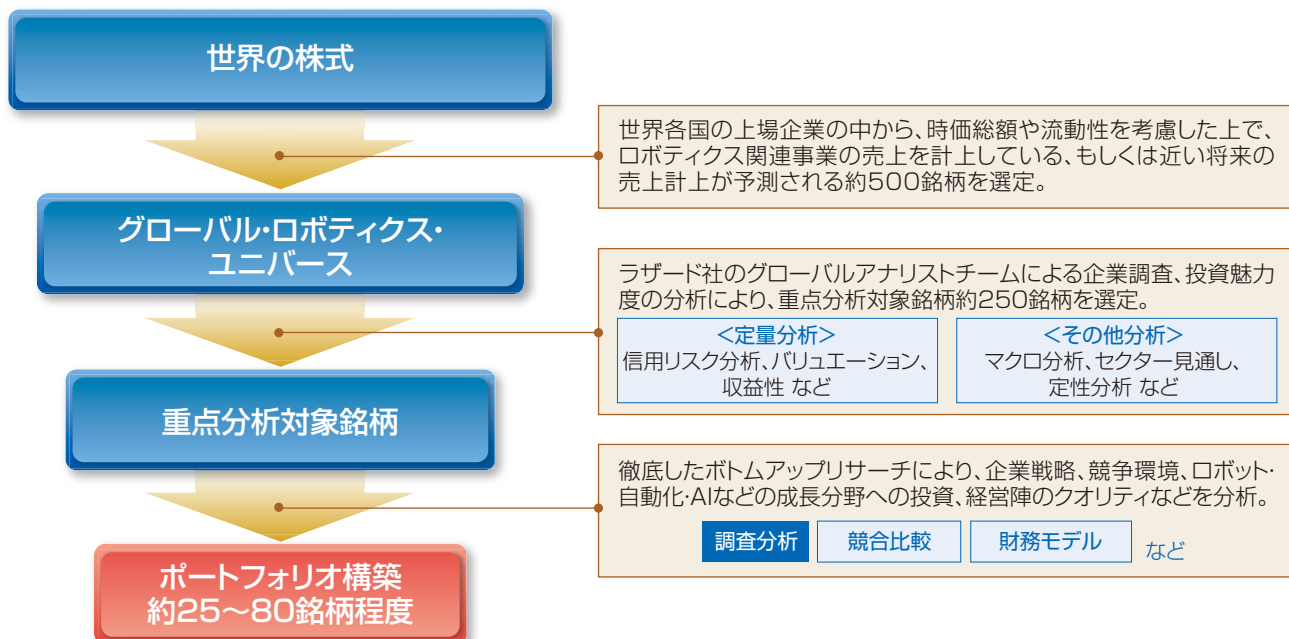
| | | |
|---|---|--|
| 地域別プロフェッショナル 米国、欧州、アジア太平洋、新興国市場 | 資産クラス別プロフェッショナル 株式、債券、オルタナティブ、マルチアセット | セクター別プロフェッショナル 金融、消費財、テクノロジー・メディア・通信、エネルギー、資本財、ヘルスケア |
|---|---|--|

総勢300名超の投資プロフェッショナルにより
専門知識を横断的に共有

〈ラザード社の拠点〉
 米国・カナダ・アイルランド・英国・ドイツ・イタリア・スイス・スペイン・オランダ・ベルギー・UAE・サウジアラビア・シンガポール・香港・韓国・日本・オーストラリア

運用プロセス

■ 当ファンドの主な投資対象であるマザーファンドの運用を行なうラザード社の運用プロセスは以下のとおりです。



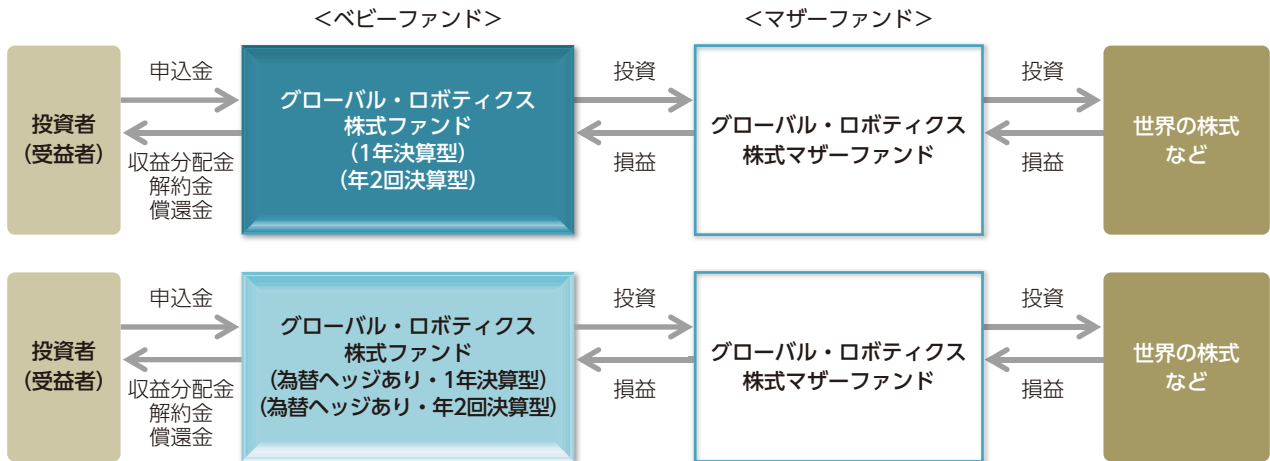
※上記は2023年6月末現在の運用プロセスであり、将来変更となる場合があります。
 ※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

ファンドの仕組みについて

ファンドの仕組み

■当ファンドは、主に「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」に投資するファミリーファンド方式で運用を行います。

*ファミリーファンド方式とは、投資者から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



※販売会社によっては、いずれかのファンドのみの取扱いとなる場合があります。また、ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります(スイッチング手数料は販売会社によって異なります)。



「グローバル・ロボティクス株式ファンド(1年決算型)」は、モーニングスター・アワード「Fund of the Year 2019」において優秀ファンド賞を受賞いたしました。

モーニングスター・アワード“Fund of the Year 2019”

優秀ファンド賞

<対象ファンド> 「1年決算型」

<部門名> 国際株式型(グローバル) 部門

【Morningstar Award “Fund of the Year 2019”に関する留意事項】

Morningstar Award “Fund of the Year 2019”は国内追加型株式投資信託を選考対象として、モーニングスター*(現:ウエルスアドバイザー株式会社)独自の定量分析、定性分析に基づき、2019年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスター*(現:ウエルスアドバイザー株式会社)が判断したものです。国際株式型(グローバル)部門は、2019年12月末において当該部門に属するファンド546本の中から選考されました。

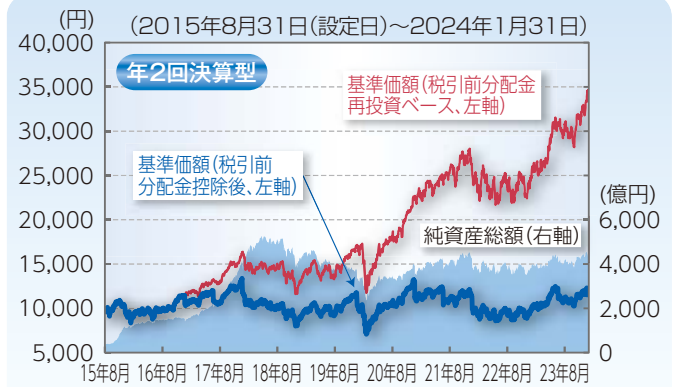
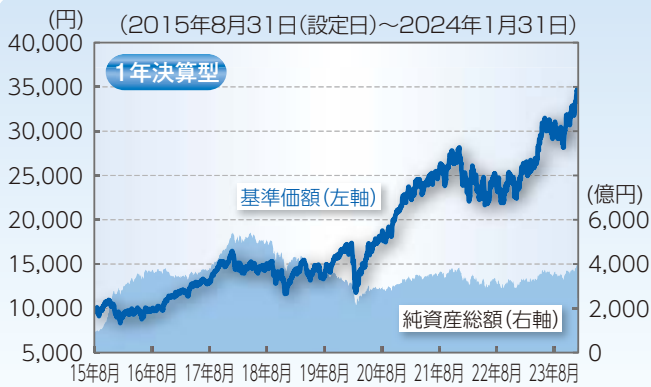
当賞は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスター*(現:ウエルスアドバイザー株式会社)が信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社*(現:ウエルスアドバイザー株式会社)並びにMorningstar, Inc.に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

※モーニングスター株式会社は2023年3月30日付で、SBIグローバルアセットマネジメント株式会社に社名を変更いたしました。現在、投資情報サービスおよび投信評価事業は同社の子会社であるウエルスアドバイザー株式会社で行っております。

基準価額の推移について

(基準価額、純資産総額および分配金実績は2024年1月31日現在)

基準価額と純資産総額の推移



<分配金実績(直近5期)>

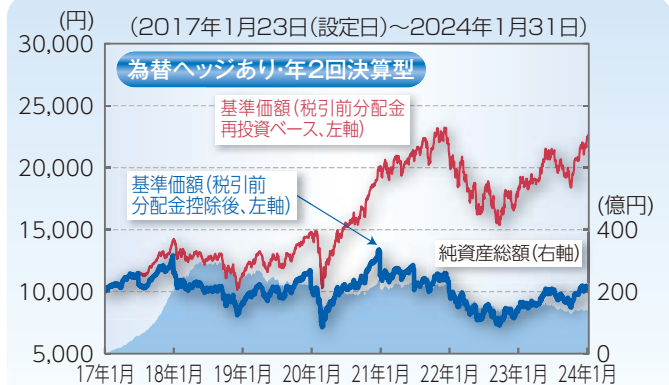
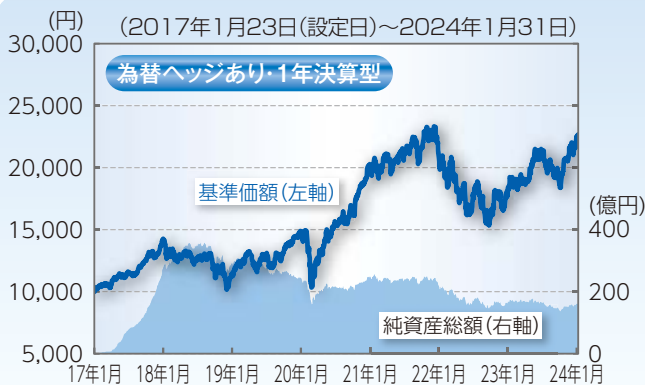
| | |
|---------|----|
| 2019年7月 | 0円 |
| 2020年7月 | 0円 |
| 2021年7月 | 0円 |
| 2022年7月 | 0円 |
| 2023年7月 | 0円 |
| 設定来累計 | 0円 |

<基準価額>
34,685円
<純資産総額>
3,986億円

<分配金実績(直近5期)>

| | |
|---------|---------|
| 2022年1月 | 950円 |
| 2022年7月 | 0円 |
| 2023年1月 | 0円 |
| 2023年7月 | 1,000円 |
| 2024年1月 | 1,000円 |
| 設定来累計 | 12,550円 |

<基準価額>
(税引前分配金再投資ベース)
34,624円
(税引前分配金控除後)
11,578円
<純資産総額>
4,564億円



<分配金実績(直近5期)>

| | |
|---------|----|
| 2019年7月 | 0円 |
| 2020年7月 | 0円 |
| 2021年7月 | 0円 |
| 2022年7月 | 0円 |
| 2023年7月 | 0円 |
| 設定来累計 | 0円 |

<基準価額>
22,593円
<純資産総額>
161億円

<分配金実績(直近5期)>

| | |
|---------|--------|
| 2022年1月 | 400円 |
| 2022年7月 | 0円 |
| 2023年1月 | 0円 |
| 2023年7月 | 0円 |
| 2024年1月 | 350円 |
| 設定来累計 | 8,800円 |

<基準価額>
(税引前分配金再投資ベース)
22,589円
(税引前分配金控除後)
10,381円
<純資産総額>
139億円

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の1万口当たりの値です。
※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

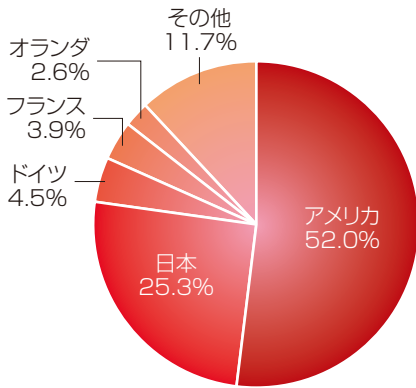


足元のポートフォリオの状況(2024年1月末時点)

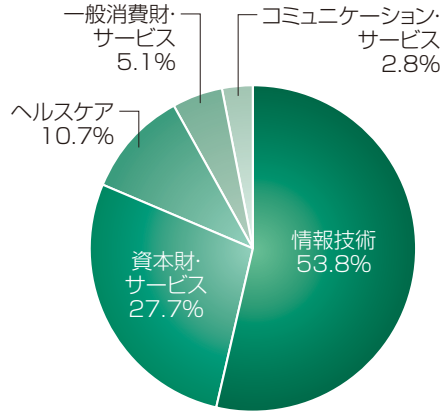


ポートフォリオの概要

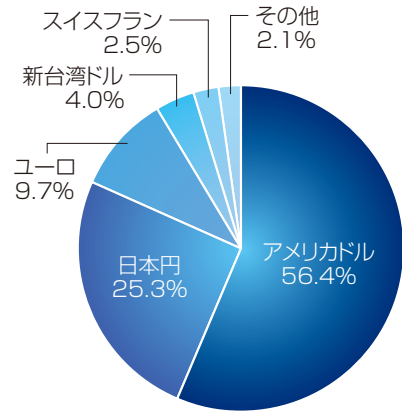
国別比率



業種別比率



通貨別比率



※上記はグローバル・ロボティクス株式マザーファンドの組入株式時価総額比の値です。各比率は四捨五入しており合計が100%とならない場合があります。

組入上位10銘柄(組入銘柄数:56銘柄)

| | 銘柄 | 国名 | 業種 | 比率 |
|----|--|------|----------------|------|
| 1 | INTUITIVE SURGICAL INC インテューイティブ・サージカル | アメリカ | ヘルスケア | 3.8% |
| 2 | キーエンス — | 日本 | 情報技術 | 3.5% |
| 3 | MICROSOFT CORP マイクロソフト | アメリカ | 情報技術 | 3.4% |
| 4 | ROCKWELL AUTOMATION INC ロックウェル・オートメーション | アメリカ | 資本財・サービス | 3.2% |
| 5 | ディスコ — | 日本 | 情報技術 | 3.0% |
| 6 | NVIDIA CORP エヌビディア | アメリカ | 情報技術 | 3.0% |
| 7 | ALPHABET INC-CL C アルファベット | アメリカ | コミュニケーション・サービス | 2.8% |
| 8 | SMC — | 日本 | 資本財・サービス | 2.6% |
| 9 | ABB LTD-REG ABB | スイス | 資本財・サービス | 2.5% |
| 10 | 日立製作所 — | 日本 | 資本財・サービス | 2.5% |

※上記はグローバル・ロボティクス株式マザーファンドの組入株式時価総額比の値です。

※「組入上位10銘柄」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

投資銘柄のご紹介



キーエンス

【株価の推移】
(2015年1月末～2024年1月末)



| | | | |
|----|------|------|---------|
| 国名 | 日本 | 時価総額 | 約16.1兆円 |
| 業種 | 情報技術 | | |

- 自動化に必要な製品を自社開発し、密着型提案営業により顧客の課題解決支援を行うFA(ファクトリー・オートメーション)総合メーカー。
- 顧客メリットの深堀や課題解決など、顧客ニーズの先を行くコンサルティングサービスに強み。高い付加価値と技術力、豊富な製品ラインナップという唯一無二のビジネスモデルによって、高成長が期待される。



ABB

【株価の推移】
(2015年1月末～2024年1月末)



| | | | |
|----|----------|------|---------|
| 国名 | スイス | 時価総額 | 約11.7兆円 |
| 業種 | 資本財・サービス | | |

- スイスに本社を置く、自動化や電化に必要な機器やソリューションを提供する企業。ハードウェアの製造業だけでなく、化学・医薬・食品など幅広い産業の自動化を促す能力がある。
- 電力ネットワークビジネスにも強く、今後の電気自動車(EV)の普及に必要なインフラや、再生可能エネルギー導入による分散電源化にも貢献が期待される。



エヌビディア

【株価の推移】
(2015年1月末～2024年1月末)



| | | | |
|----|------|------|----------|
| 国名 | 米国 | 時価総額 | 約223.2兆円 |
| 業種 | 情報技術 | | |

- 高性能の画像処理半導体(GPU)に強みを持つ世界トップクラスの半導体企業。GPUは、PCゲームの画像処理のみならず、データ処理を行なうデータセンターや自動車など、用途が拡大している。
- IoTの本格普及や、ビッグデータ活用の進展に加え、生成AIの飛躍的な成長により、データセンターにおける演算処理能力の向上が求められる中、AI向け半導体でトップシェアの同社の役割が期待される。



インテューイティブ・サージカル

【株価の推移】
(2015年1月末～2024年1月末)



| | | | |
|----|-------|------|---------|
| 国名 | 米国 | 時価総額 | 約19.5兆円 |
| 業種 | ヘルスケア | | |

- ロボット手術システムメーカーの世界最大手で、市場をほぼ独占。同社の外科手術ロボット「da Vinci」は患者の負担が少ない低侵襲手術を実現。ロボット手術は、手術後の退院早期化や、合併症の抑制につながり、トータルでの医療費節減が期待される。
- ロボット手術の普及率はまだまだ低いことから、導入地域の拡がりや、適用される手術領域の拡大による市場成長と同社売上成長が今後も期待される。

※時価総額は2024年1月末時点、円換算レート:2024年1月末時点(1米ドル=146.92円、1スイスフラン=170.56円)。

※写真はイメージです。

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は2024年1月末現在の「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の組入上位銘柄の一部を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。



お申込みに際しての留意事項①

リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

【為替変動リスク】

◆「1年決算型」／「年2回決算型」

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

◆「為替ヘッジあり・1年決算型」／「為替ヘッジあり・年2回決算型」

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。

【有価証券の貸付などにおけるリスク】

有価証券の貸付行為などにおいては、取引相手先リスク(取引の相手方の倒産などにより貸付契約が不履行になったり、契約が解除されたりするリスク)を伴ない、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。貸付契約が不履行や契約解除の事態を受けて、貸付契約に基づく担保金を用いて清算手続きを行なう場合においても、買戻しを行なう際に、市場の時価変動などにより調達コストが担保金を上回る可能性もあり、不足金額をファンドが負担することにより、その結果ファンドに損害が発生する恐れがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。



お申込みに際しての留意事項②



その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様にご帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。



メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.



メモ



A large area of the page is filled with horizontal dashed lines, providing space for writing notes.

お申込みメモ

- 商品分類 追加型投信／内外／株式
- 購入単位 販売会社が定める単位
※販売会社の照会先にお問い合わせください。
- 購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- 信託期間 <1年決算型>／<年2回決算型>無期限(2015年8月31日設定)
<為替ヘッジあり・1年決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型>無期限(2017年1月23日設定)
- 決算日 <1年決算型>／<為替ヘッジあり・1年決算型>毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日)
<年2回決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型>毎年1月20日、7月20日(休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 <1年決算型>／<為替ヘッジあり・1年決算型>
毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
<年2回決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型>
毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行いません。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- 換金価額 換金申込受付日の翌営業日の基準価額
- 購入・換金申込不可日 販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 換金代金 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
- 課税関係 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。
※各ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※配当控除の適用はありません。
※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

- 購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.85%(税抜3.5%)以内
※購入時手数料(スイッチングの際の購入時手数料を含みます。)は販売会社が定めます。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
 - 換金手数料 ありません。
 - 信託財産留保額 ありません。
- ※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行なえない場合があります。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

- 運用管理費用(信託報酬) ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.936%(税抜1.76%)
- その他の費用・手数料 目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用、運用において利用する指数の標準使用料などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品賃料に0.55(税抜0.5))を乗じて得た額などがその都度、信託財産から支払われます。
※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
- 投資顧問会社 ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社
- 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
[ホームページ]www.nikkoam.com/
[コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)